



記録的豪雨に続く連日の猛暑と、今年の夏はいつも以上に大変です。法学類月報第 56 号では、仲正昌樹先生のエッセイ、民法ゼミの合同ディベート大会のレポート、法曹養成支援プログラムのお知らせをお届けします。なお、8 月は月報の発行をお休みし、次号は 9 月となります。



◆◆教員エッセイ◆◆

第 21 回 仲正昌樹先生（政治思想史）

◆ 基礎教養としての演劇

六年くらい前から、京都を拠点とする吾郷聡（あごうさとし）さんという演出家による、前衛的な演劇の創作にドラマトゥルクという立場で参加しています。ドラマトゥルクとは簡単に言うと、演出・脚本家を理論面から助言する役目です。いろんな助言の仕方がありますが、私の場合、基本的なコンセプト作りの段階から関与し、何度か稽古に立ち会い、役者さんの身体の動きにどう意味付けするか、現場で相談します。

今年の三月には、東京のアゴラ劇場で上演された、男女二人＋犬一匹、という一風変わった舞台に、自ら役者として出演しました。『Pure Nation2』というタイトルです。プロの役者が芸大等の教授になることはありますが、演劇と関係ない分野の教員が前衛芝居の役者をやるのは極めて異例でしょう。

私が関わっている作品は、身体レベルのディスコミュニケーションをテーマにしています。役者さんの体の動きを観察しながら創作を進めていると、人間は言葉でやりとりする以前に、身体の反応を通して様々な情報を交換していることが分かってきます。言葉によるフォーマルな交渉過程を研究する法学の、裏面に当たる領域に関わっているような気がしています。

七月末に京都の東九条地区にあるミニ劇場で、私は出演しませんが、『触覚の宮殿』という作品が上演されます。ミニ劇場と町おこしという面白いテーマも関わっているのですが、それは別の機会に話すことにしましょう。



Current News

最近の出来事から

民法(高)ゼミ 立教大学との合同ディベート大会

7 月 7 日(土)、人間社会第 2 講義棟 207 教室にて、立教大学の藤澤先生

のゼミと本学類の高教員の担当するゼミ(民法演習)によるディベート大会が開催されました。

長大な事案のなかで、多岐にわたる争点が設けられた問題をめぐり、両大学ゼミは争点ごとに各3チームに分かれて、白熱した議論を交わしました。大まかに、第1争点は不法行為に関するもので、第2争点は越権代理、第3争点は将来債権譲渡担保に関するものでした。

当日のディベートは、各争点ごとに「双方チーム立論→(作戦タイム)→双方チーム反論→(作戦タイム)→フリーディスカッション→(作戦タイム)→再反論・まとめ」という具合に工夫が凝らされた進行のものとされました。

各争点の立論について、両大学教員による講評があったほか、このディベート大会のためにお越しいただいた日本評論社の編集者の方2名による公平かつ鋭いジャッジがなされました。それぞれのチームの立場が先鋭に対立する一方、各チームは相手方の立論から新たな発見や学びを獲得し、またそれを踏まえた議論が重ねられました。

4時間半の長丁場であったにも関わらず、皆さん最後まで集中力を途切れさせることなく、充実した濃厚なディベート大会になりました。

お知らせ

法曹養成支援プログラムが始動しています

本年度より、法学類では法科大学院と連携して「法曹養成支援プログラム」を開設しました。これは、将来の進路として法曹になることに少しでも関心のある法学類生のために、進学に必要なアドバイスや情報提供、法務研究科教員との交流の機会などを設け、法科大学院への進学等を支援することを目的としたものです。

プログラムではこれまでに、懇談会「ロースクール・法曹のこと、なんでも聞いて下さい!」を開催し(5月21日)、法科大学院の実務家教員、法学類から法科大学院に進学した院生、修了生の弁護士に、法学類生の疑問・質問に率直にお答えいただきました。また、法科大学院生が授業の一環として実施している刑事模擬裁判を公開していただき(7月9日)、裁判員になったつもりで手続過程を体験した上で判決を考えることで、法科大学院における授業の一端に触れるとともに、刑事裁判の手続に対する理解を深めてもらうことができました。

今後、登録者のニーズを聴きながらいろいろな企画を実施してまいりますので、積極的に機会を利用してください。また、皆さんのご意見・ご要望・ご質問などをどしどし寄せて下さい。なお、プログラムへの新規登録は学年を問わず随時受け付けています。教務係(法学類担当)に問い合わせてください。

法曹養成支援プログラム担当(実務者会議) 野坂佳生・福本知行



法学類HP
へGO!



- 法学類の学生、卒業生、教員に関係するイベント等の情報を、ぜひお寄せください。
- 関係者の皆様のご寄稿を歓迎します。採用された方には、法学類グッズを進呈します。
- 本誌のバックナンバーは、金沢大学法学類 Web サイトに掲載していますのでご覧ください。<http://law.w3.kanazawa-u.ac.jp//category/brochure/geppo>
また、メールでの定期配信(無料)をご希望の方は、金沢大学人間社会系事務部学生課(n-kyomu@adm.kanazawa-u.ac.jp)までお申し込みください。
- お読みになってのご意見ご感想は、上記メールアドレスまでお寄せください。